

令和4年度（2022年度）

厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策政策研究事業)

分担研究報告書

拠点病院集中型の HIV 診療から、地域分散型の HIV 患者の医療・介護体制の構築

東葛地域の HIV 診療に関する研究

研究分担者 塚田弘樹

東京慈恵会医科大学附属柏病院 感染制御科 教授

研究要旨

東葛地域ではコロナ禍での受診控えを反映して、「いきなりAIDS」患者が徐々に増えている。2022年度は、HIV感染症患者より「いきなり AIDS」患者のほうが多かった。患者の高齢化も進んでおり、非HIV患者と同様に在宅サービスや施設入所ができるのに必要な基盤構築（院内外での研修、地域での多職種連携）を継続した。少しずつ協力施設が増えてきている。訪問看護や高齢者施設で、1回でも受け入れ経験のあるところ、あるいは今後相談を受けてくれるところ、等の社会資源の情報がわかるように登録ネットワークの作成を考えている。拠点病院として地域内の関係者に対する情報提供していくことを目的に、診療チームを院内に立ち上げた。チームの紹介冊子を作成し、患者や関係各所に配布した。

以上の活動から、高齢患者を支える社会基盤のニーズの高まりと関係者へのさらなる知識・情報提供が求められていることが分かった。

A. 研究目的

今年度は、地域包括ケアとの連携に必要な基盤構築をさらに進めるため多職種連携を企図した。

具体的には、院内の組織として、HIV とともに生きる人たちを支援するチーム（HST）を立ち上げ、HIV/AIDS 患者の長期療養体制の課題抽出を行う基盤とする。

チーム内で長期療養が必要な患者を洗い出し、行政との協働ケアを目指すため、地域内勉強会に向けてのモデルケースを抽出する。

当院の門前薬局を対象とした症例検討会を企画し、保険薬局の教育啓発と薬々連携の基盤とする。

訪問看護師の定期会議に参加し、講演する機会を持ち、感染対策や偏見・差別など、HIV 感染症患者の受入の障壁を除去する。

東葛地域の患者動向を把握し、高齢患者の実態情報を共有することで、社会資源の有効利用の方策を探る。

B. 研究方法

- ・多職種を対象とした会議の企画と実行
- ・東葛地域の拠点病院に対してのアンケート調査

（倫理面への配慮）

ケースカンファレンスでは、患者を匿名として個人情報保護する。

個人の情報に抵触しないアンケート内容とする。

C. 研究結果

①医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、業務課職員から HST チーム員が指名され、院内組織図に診療チームのひとつとして位置付け、掲載することができた。HST のパンフレット「あなたを支える HST」を作成し、患者や関係各所に配布できた。

②域内調剤薬局との勉強会（6月、9月、3月の3回開催。）

周辺薬局や関係施設の参加を得て、当院の診療の現状と最新の治療について概説、その後、治療当院薬剤師の HIV 薬の副反応や他薬剤との飲み合わせに関する講演と症例検討会を開催した。

③訪問看護師向けの勉強会

柏地域医療連携センターにおいて柏市訪問看護ステーション連絡会が定期開催されているが、

HIV 患者さんに向き合う、をテーマに 2023 年 4 月開催の運びとなった。HIV 患者を訪問看護師に安心してみていただけることを目的として診療の現状、針刺し事故対策、看護師、ソーシャルワーカーの役割について説明予定。

④新松戸中央病院からの情報提供

症例数が一貫して増加しており、70 歳以上のフォロー症例が 8 例いるうち施設入所が 3 例いること、2022 年度は「いきなりエイズ症例」が 5 例、80 代死亡 3 例があり、死因は、①抗 HIV 薬自己中断後 PCP 他で死亡、②脳梗塞後高次機能障害で施設入所し、数か月後に死亡、③透析患者で造影剤アレルギーが引き金となり死亡、であった。

D. 考察

東葛地域の患者の高齢化に伴って、医療従事者と広くコミュニティへの啓発活動(教育)を通して、院内のチーム員への利用可能な医療リソースの可視化が必要である。症例検討は関心が高く、身近な問題として認識させる良い方策であった。

東葛地域では、コロナ禍による受診控えによる「いきなり AIDS」症例増加の懸念がある。

E. 結論

コロナが落ち着きつつある現在、重症での発覚が顕在化している。高齢患者を支える社会基盤のニーズが高まっている。病院内のスタッフや病院外の関係者へのさらなる知識・情報提供が必要である。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

① 泉澤友宏、金子知由、永野裕子、佐藤萌子、宮本佳子、菅野みゆき、蔭山博之、長谷川英雄、長谷智子、堀野哲也、吉田博、塚田弘樹 Clostridioides difficile 感染症における metronidazole の有効性の検証 日化療会誌 70 (2): 210-216, 2022

② Yoshifumi Imamura, Taiga Miyazaki, Akira Watanabe, Hiroki Tsukada, Hideaki Nagai, Yoshinori Hasegawa, Kazunori

Tomono, Isao Ito, Shinji Teramoto, Tadashi Ishida, Jun-Ichi Kadota, Shigeru Kohno, Hiroshi Mukae Prospective multicenter survey for nursing and healthcare-associated pneumonia in Japan. 2022 J Infect Chemother. 28(8):1125-1130.

2. 学会発表

口頭発表

① 泉澤友宏、金子知由、堀野哲也、塚田弘樹 第 70 回日本化学療法学会総会 2022 年 6 月 Clostridium difficile 感染症における metronidazole の有効性の検証

② 塚田弘樹

第 71 回日本感染症学会東日本地方会学術集会 第 69 回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会 教育セミナー 3 2022 年 10 月 With コロナ時代の呼吸器感染症治療を再考する～キノロン系抗菌薬の適切な選択を含めて

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし